

大倉、AI活用の無人店舗実験 12日から

2021/2/10 19:30 | 日本経済新聞 電子版



天神橋筋商店街で無人店舗の実験をする

中堅不動産会社の大倉（大阪市）は12日から、大阪市の天神橋筋商店街内で人工知能（AI）カメラとセンサーを設置した無人店舗の実証実験を始める。利用者は専用アプリで事前に決済手段などを登録し、店舗内のセルフレジで精算する。21年夏をめどに無人店舗の仕組みを商品化し、オフィスや病院などでの採用を目指す。

店名は「ヘスタ・スマートストア」。住宅や家電向けに開発を進めてきた画像認識やセンサーの技術を応用した。無人店舗には顔認証で買い物ができる自動販売機なども併設する。お菓子や化粧品など約50種類の商品を販売する。

来店客が商品をレジに置くとカメラが検知して決済に進む仕組み。店舗内には顔認証技術を搭載したカメラも設置されており、性別や年齢などをデータとして収集するという。将来的にはレジなしで買い物できるシステムを目指す。

実証実験でカメラの有効性や店舗の安全性などを確かめ、21年夏ごろをめどに実用化する。大倉の担当者は「店舗の省人化につながるほか、非接触で新型コロナウイルスの感染予防にもつながるのでは」と話した。

©日本経済新聞社 許諾番号30080634-2

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。